作文1部

全国農業協同組合中央会会長賞

「おにぎりは ばばのあじ」

山形県最上町立大堀小学校一年
後藤 天羽

「ばばー、しおおにぎりつくってー。」

ぼくは、がっこうからかえっておなかがすくと、おばあちゃんにおねがいします。

「はい、できたよー。」

と、おばあちゃんがつくってくれるおにぎりは、おおきくて、のりでくるりとまいてあって、ちょうどいいしょっぱさで、さいこうにおいしいです。おかあさんも、おなじようにつくってくれるけど、このしおおにぎりだけは、おばあちゃんのほうがなんばいもおいしいです。ぼくは、おにいちゃんたちと、

「なんでなんだろうね。」

と、はなしをしました。そして、三にんできづきました。

「わかった！きっと、ばばのてからおいしさのもとがにじみでてくるんだ！おかあさんのてには、まだそれがないんだよ！。」

おばあちゃんとおかあさんに、そのはなしをしたら、おばあちゃんはとってもうれしそうでした。そして、おかあさんはすこしくやしそうにしながら、

「それだけは、やっぱりかなわないんだね。おかあさんもちいさいとき、おなじようにおばあちゃんがつくってくれたおにぎりがとってもおいしかったな。」

と、はなしてくれました。そして、そんなおいしいおにぎりがたべられるのは、たんぼをたいせつにまもり、いっしょうけんめいおしごとをがんばってくれるおじいちゃんのおかげなんだということも、おしえてくれました。おなかがすいたとき、おいしいおにぎりがたべられるのは、とてもしあわせなことなんだということも、八がつ六にちのせんそうがあったひにおはなししてくれました。いろんなはなしをきいて、ぼくはとてもしあわせものなんだなあと、すごくおもいました。おにぎりは、かんしゃのあじでもあるんだとおもいました。ばば、またつくってね。